

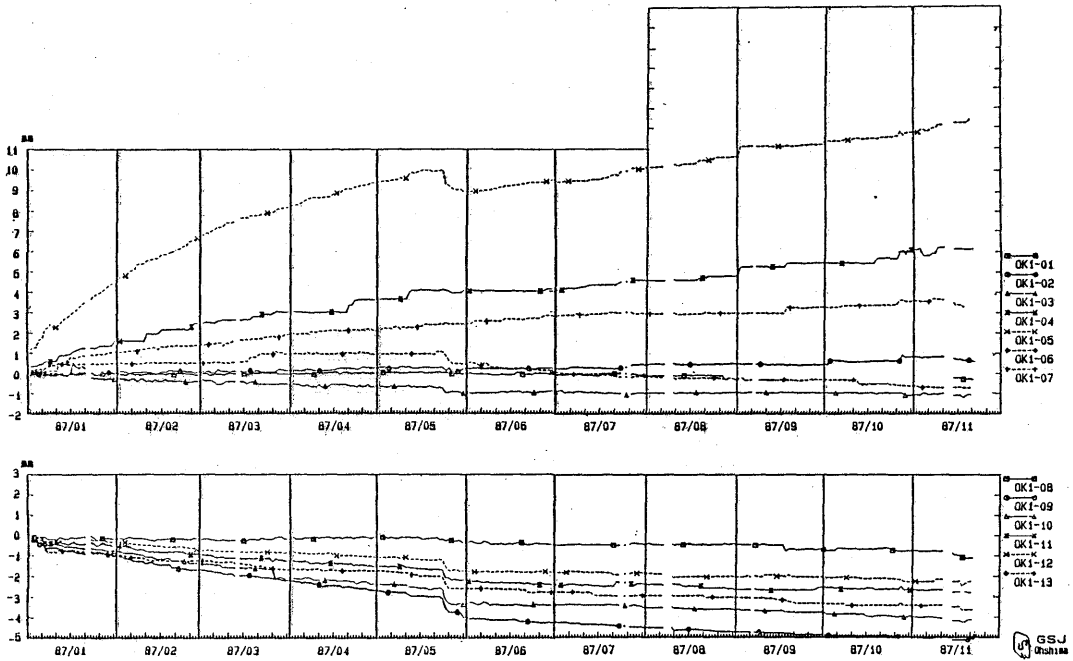
伊豆大島における伸縮観測結果*

(1987年6月～1987年11月17日)

地質調査所**

本稿では、伊豆大島に於けるインバール線式伸縮計による地殻変動観測の結果について、主に島の南東部について述べる。

1. 南東部の奥山にはOK1及びOK2の2測線を設置した。このうちOK1の1987年1月から11月までの観測結果を第1図に示す。本測線は1986年11月21日の割れ目噴火時に形成された割れ目を横断し、斜面上に設置されている。継続的に観測された変化の分布は、斜面の上部で伸張、下部で圧縮である。しかし、その変化(時間-歪)は、5月下旬の圧縮の変動時を境に異なっている。つまり、5月下旬までの各測点毎の変化は、変化量が時間と共に指数関数的に減少し一定値に近づいていることを示していた。しかし、5月下旬は、各測点で、変化量が指数関数的に減少しながらも、歪速度一定の直線に近づき、ほぼ6月以降、変化量が一定である変位が継続した。
2. 1987年11月16日10時47分の山頂噴火時には、10時10分～11時10分の観測時刻間には、OK1及びOK2の測線で、観測測線の方に圧縮する変動が観測された。
3. この時刻には、他の観測測線では、明瞭な変化は観測されていない。



第1図 累積変位量経時変化図 (OK1)

Fig.1 Variations of line length at OK1 extensometer observation line.

* Received Jan. 18, 1988

** 遠藤秀典